

第5章 鳥類

武石 宣彰

鳥 類

1 調査の概要

平成 17 年に 9 市町村が合併して誕生した佐伯市は、面積が九州で最も広い市となり、変化に富んだ自然環境を有するものとなりました。深島、屋形島などの島嶼とその周辺の海域、上浦から蒲江にかけての海岸線、番匠川水系等の河川などの水辺環境は変化に富んでいます。また市街地に近い所に城山などの豊かな森や干拓地、田畑などがあり、さらに広範な里地里山、そしてその背後には傾山などの標高 1000m を越える山地が広がっています。これらの変化に富んだ豊かな自然環境には多くの鳥類が生息しています。この佐伯市に生息する鳥類とその生息環境を保全するために、この地域における鳥類の生息状況の調査を実施しました。

(1) 調査対象及び調査対象地域

佐伯市において観察される野生の鳥類を調査の対象とし、この地域で繁殖し年間を通して生息している「留鳥」、春に渡来して繁殖し秋には南の地方に移動する「夏鳥」、秋に渡来して越冬し春には北の地方へ移動する「冬鳥」、日本より北で繁殖し日本より南で越冬するために春や秋に日本を通過する「旅鳥」、渡りのルートではないが何らかの理由で目撃された「迷鳥」について生息状況の調査を行いました。

調査対象区域は、それぞれの鳥類の生息環境から以下のように設定しました。

- ①島嶼部及び海上（深島、屋形島、沖黒島、大島、大入島などとその周辺の海域）
- ②海岸部（蒲江、米水津、鶴見、上浦などの海岸とその後背地）
- ③河川（番匠川水系及び北川水系の河川とその周辺地域）
- ④市街地近郊（佐伯市街地及び城山、女島などの市街地周辺地域）
- ⑤里地里山（大越、本匠、青山、宇目などの人家や田畑及びその周辺の山林）
- ⑥山地（彦岳、佩楯山、傾山、夏木山などの山岳地域）

(2) 調査期間

調査地域における現地調査を平成 21 年 1 月から平成 23 年 12 月の期間に行いました。

(3) 調査方法

- ①現地調査では、河川部や市街地、山地は、調査ルートを時速約 1.5 km で歩き、両側及び上空に出現する鳥類を記録しました。島嶼部や里地里山は数箇所の定点で出現する鳥類を観察して記録し、海岸部は移動しながら両側及び上空に出現する鳥類を記録しました。調査用具には、双眼鏡(8 倍)、望遠鏡(20～45 倍)、カメラ、時計、地図等を使用しました。
- ②文献調査は、平成 20 年以前の鳥類観察記録、日本野鳥の会大分県支部機関紙「たより」、大分県自然環境学術調査、河川水辺の国勢調査、各町誌村誌などを行いました。

2 調査結果と鳥類の生息状況

平成 21 年 1 月から平成 23 年 12 月にかけて現地調査を行い、15 目 43 科 142 種の鳥類を確認しました。これに文献調査で確認された種を加え、佐伯市全体として 17 目 58 科 256 種の鳥類を記録しま

した。大分県内では 335 種の野生鳥類が確認されていますが、今回の現地調査及び文献調査から、佐伯市では大分県内に生息する鳥類の 76.4%を確認することができました。(佐伯市鳥類目録参照)

佐伯市と大分県全域の鳥類の生息状況を比較してみると以下ようになります。

(1) 目別種数構成比の比較

スズメ目やチドリ目など各目ごとに構成する鳥類の種数を比較すると図 1、図 2 のようになります。佐伯市では大分県全域の約 8 割近くの種類が出現していますので、その目別種数構成比は非常に似たものとなっていますが、カモやタカの仲間の種類数がすこし少ない分、森林性の鳥などのスズメ目の割合が若干高くなっています。

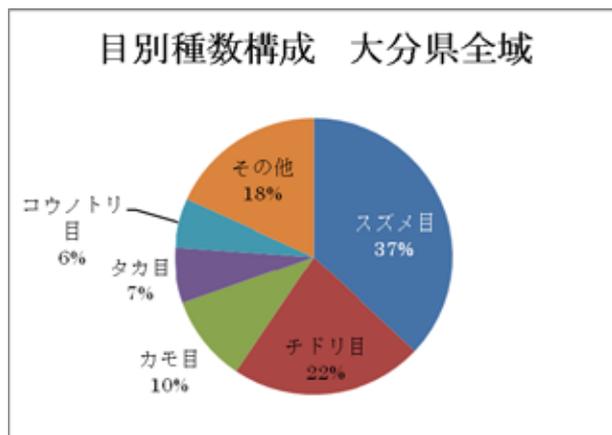


図 1

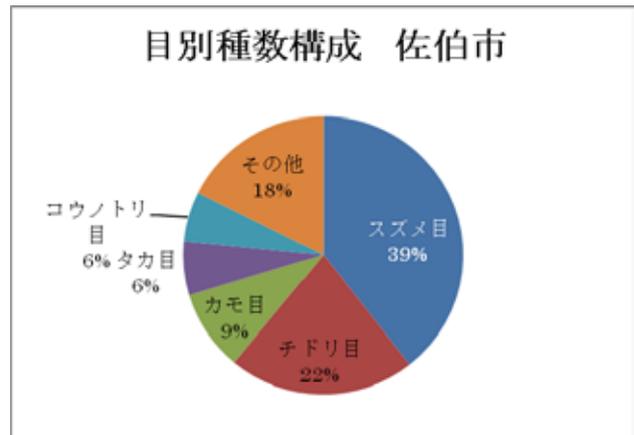


図 2

(2) 生活型特性の比較

鳥類を生息の状況から、夏鳥、冬鳥、留鳥、旅鳥、迷鳥に区分してその構成種数をレーダーチャートにすると図 3、図 4 のようになります。大分県全域と比較すると、夏鳥と留鳥はほぼ同様の種類が生息していますが、冬鳥と迷鳥が少なくなっています。

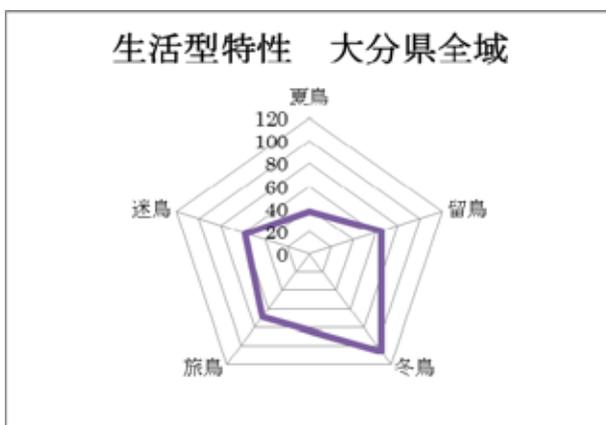


図 3

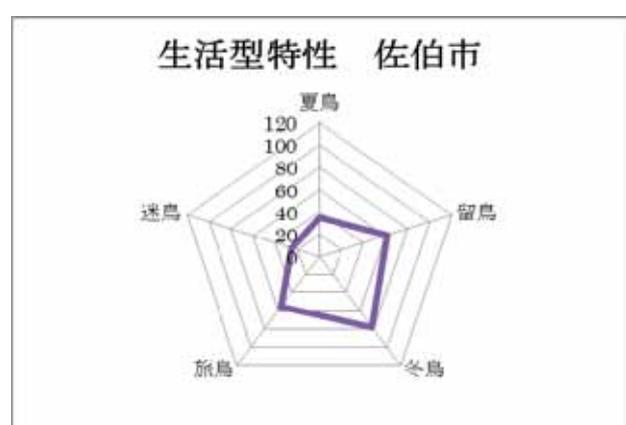


図 4

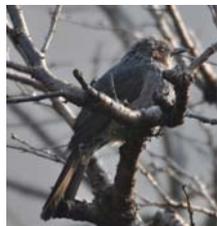
(3) 環境別の鳥類の生息状況

3 年間の現地調査結果から得られた 6 箇所の調査対象地域別の鳥類の生息状況は表 1 のようになります。

す。鳥類の環境別の生息種数では、最も種類が多かった環境は「河川」で、番匠川水系や北川水系の河川部とその周辺の河畔林などです。それに続いて「市街地近郊」、「里地里山」となっています。鳥にとってエサが豊富で採り易いことが生息の重要な要素となり、そのため水辺や人の生活圏に近い所で生息する種類が多くなったと思われます。またトビ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、メジロ、ホオジロは分布域が広く、全ての環境で見られました。



トビ



ヒヨドリ



ウグイス



エナガ



ヤマガラ



メジロ



ホオジロ

現地調査以前の観察記録や文献記録も加えた環境毎の鳥類の生息状況は以下の通りです。

①島嶼部及び海上（深島、屋形島、沖黒島、大島、大入島などとその周辺の海域）

深島、屋形島、沖黒島では国の天然記念物で環境省と大分県のレッドデータブックで準絶滅危惧種に指定されているカラスバトが生息しています。カラスバトは離島の常緑広葉樹林や灌木林に生息して、シイやタブの実などを主な食物としています。1回の産卵では1個の卵しか産まず、繁殖力が強く無いために絶滅が懸念されています。沖黒島ではオオミズナギドリとカワウが集団で繁殖しています。オオミズナギドリは日中は海上でエサを採り、夜になると島に戻ってきます。地面に穴を掘り、卵を産んでヒナを育てます。海上では国の天然記念物で絶滅危惧種のカンムリウミスズメが見られます。この地域はカンムリウミスズメの繁殖地である宮崎県門川町の枇榔島が近く、そこで繁殖したものが拡散していると思われます。



カラスバト



オオミズナギドリ

この豊後水道は春や秋には渡り鳥の通過コースとなっており、オオルリやコサメビタキなどの夏鳥やノジコなどの旅鳥が渡り途中の休息やエサの補給などにこれらの島を利用しています。島の周辺の海域や海上ではウミネコやセグロカモメ（冬鳥）などのカモメの仲間やカワウやウミウ（冬鳥）などのウの仲間が数多く見られます。



ノジコ



ウミネコ

②海岸部（蒲江、米水津、鶴見、上浦などの海岸とその後背地）

海岸部ではアオサギやクロサギなどのサギの仲間やカモメの仲間、ウの仲間が多く見られます。冬鳥のウミウやヒメウは越冬の為に渡来して海岸部の岩礁などを利用しています。海岸がリアス式で干潟が少ない為、キアシシギやチュウシャクシギなどのシギやチドリの仲間は少数が立ち寄るのみです。



アオサギ



クロサギ



ウミウ



ヒメウ

猛禽類では絶滅危惧種のミサゴやハヤブサがハンティングを行っており、海岸部での繁殖も確認されています。ミサゴはトビと同じくらいの大きさですが、翼はトビより細く体の下面と頭が白いのが特徴です。水面の上空を飛びながら魚を探し、見つけると急降下して水中にダイビングし魚を足で捕えます。ハヤブサは鉄塔の上や断崖の岩場などの見晴らしの良いところで、ヒヨドリやドバトなどを狙います。高速で獲物の小鳥に近づき、上空から急降下して獲物を捕らえます。



ミサゴ



ハヤブサ

秋にはサシバやハチクマなどが南へ渡るため、四国から豊後水道を越えてこの海岸部へ入ってきます。鶴見半島から蒲江にかけての海岸は、四国山地の南部を通過したサシバやハチクマの渡りのルートの最北部に当たっており、渡りのシーズンには多くのサシバやハチクマが南下する様子が見られます。



サシバ



ハチクマ

③河川（番匠川水系及び北川水系の河川とその周辺地域）

河川は番匠川、堅田川、久留須川、木立川、北川などで、河口から上流域及びダム湖の水辺とその周辺の河畔林に生息する鳥類の種類は多く、佐伯市の自然環境の中で最も多くなりました。河口には干潮時に干潟が出て渡り途中のチュウシャクシギやトウネンなどシギ・チドリの仲間が羽を休めますが、干潟の面積があまり広く無いため立ち寄る数は少数です。



チュウシャクシギ



トウネン



ソリハシシギ



オオソリハシシギ



ユチドリ

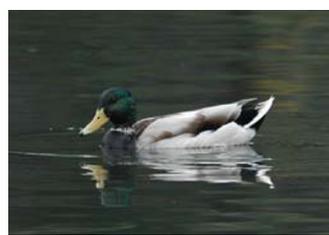


アオアシシギ

番匠川下流域の鳥獣保護区では、冬季にたくさんのカモ類が越冬のため渡来し、ヒドリガモやマガモ、オナガガモ、カルガモなど約 2000 羽が羽を休めています。秋の渡来当初、オスの羽はメスと同じような地味な色合いですが、12 月ころにはきれいな色の羽に変わり、メスとペアを作り春には繁殖のために北の地方へ渡っていきます。



ヒドリガモ



マガモ



オナガガモ



カルガモ



オカヨシガモ



ハシビロガモ

河川の全域に渡って水辺で生息するサギの仲間やカワウ、カモの仲間、イカルチドリやカワセミ、セキレイなどが見られます。上流域ではカワガラスやヤマセミがこれに加わります。河川に沿った河畔林ではシジュウカラやヤマガラ、メジロなどの森林性の鳥も見られます。冬季、堅田川上流の黒沢ダムでは約 300 羽ほどのオシドリが渡来し越冬します。また北川ダムでは毎年、ブッポウソウ（夏鳥）が 2~3 つがい営巣して子育てをしています。



カワウ



カワセミ



キセキレイ



ヤマセミ



オシドリ



ブッポウソウ

④市街地とその近郊（佐伯市街地及び城山、女島などの市街地周辺地域）

市街地では人の近くで生活するスズメやツバメ（夏鳥）、ムクドリ、ハシボソガラスなどが見られます。近くの林から市街地の公園や民家の庭にシジュウカラやメジロ、ヒヨドリなどの森林性の鳥も姿を見せます。メジロは黄緑色の体で目の回りの白いリングがよく目立ちます。林の中から人家の庭先まで現れ、人に親しまれている鳥であることから大分の県鳥になっており、佐伯市のシンボルの鳥にも指定されています。昆虫や木の実をエサとしますが、甘いものが好物でツバキやウメ、サクラの花の蜜もよく吸います。



スズメ



ツバメ



ムクドリ



ハシボソガラス



メジロ



シジュウカラ

市街地近郊の女島や小島、津志河内などの干拓地や農耕地では 1 年を通してホオジロやキジバト、ヒバリなどの身近な鳥が多く見られ、冬季にはツグミやアオジ、ミヤマガラスなどの冬鳥が越冬します。また春や秋の渡りのシーズンにはノゴマやノジコ、ノビタキなどの旅鳥が立ち寄り、エサの補給をしています。女島や小島、津志河内は頻りに珍しい鳥が出現するため、渡りのシーズンなどにはたくさんのバードウォッチャーが訪れて野鳥観察を楽しんでいます。



キジバト



ツグミ



アオジ



タゲリ



ノゴマ



ノビタキ



ギンムクドリ



ツメナガセキレイ



シラコバト

城山は市街地のすぐ近くにある自然豊かな森で、エナガやヤマガラ、メジロなどの森林性の鳥が1年中見られます。冬季にはシロハラやミヤマホオジロ、ジョウビタキなどの冬鳥の良好な越冬場所にもなっています。



シロハラ



ミヤマホオジロ



ジョウビタキ

⑤里地里山（大越、本匠、青山、宇目などの人家や田畑及びその周辺の山林）

佐伯市の自然環境の中で最も広い範囲を占める里地里山は、中小河川の水辺や水田・畑地の農耕地、神社林や人家近くの雑木林など自然環境が多様で多くの生き物が暮らす所です。水辺ではキセキレイやカワセミ、ヤマセミなどが生息し、農耕地ではスズメやムクドリ、アマサギ（夏鳥）、キジ、ミヤマガラス（冬鳥）などが見られます。神社の森ではアオバズク（夏鳥）やフクロウが営巣します。森林部では、ヤマガラやコゲラ、ウグイス、サシバ（夏鳥）、サンショウクイ（夏鳥）などが生息しています。



キジ



アマサギ



ミヤマガラス



アオバズク



コゲラ



サンショウクイ

⑥山地（彦岳、佩楯山、傾山、夏木山などの山岳地域）

標高の高い山地の森林には、ヒヨドリやエナガ、メジロなどの森林性の留鳥に加え、夏鳥のサンコウチョウ、オオルリ、センダイムシクイなどが見られます。

タカの仲間ではクマタカが周年生息しています。クマタカは山地の森林に生息する大型のタカで、森林生態系の頂点に位置する生物です。季節的な移動はせずに一年中同じ地域に留まり、翼を広げると 1m50cm ほどになります。林の中や草地などを飛びながら獲物を探したり、木の枝に止まって獲物の現れるのを待ったりして狩を行います。エサは、ノウサギやイタチなどの哺乳類やキジやヤマドリ、コジュケイ、ヒヨドリなどの鳥類が主です。現在、クマタカは繁殖率の低下やエサとなる生き物の減少などで、個体数が減少しており、絶滅が危惧されています。



クマタカ

傾山系には大分県レッドデータブック掲載種で絶滅が懸

念されているホシガラスが生息しています。ホシガラスは祖母傾山系の標高 1200m 以上の林に生息し、ハトと同じくらいの大きさで全身黒褐色の地に白い斑点が並んでいるカラスの仲間です。渡りをせず祖母傾山系の標高の高い所に生息していますが、冬期にはエサを求めて標高の低い所に移動します。エサはヒメコマツやツガ、マツの実、昆虫や小鳥の卵やヒナなどを食べる雑食性です。木の実を岩かげや枯れ木のへこみなどに貯食する習性があり、食べ残された実が発芽して森林が広がっていく種子散布の役割を担っています。ホシガラスは祖母傾山系が日本での繁殖のほぼ南限であり、渡りをしないため地域個体群として生息地が孤立し生息個体数はかなり少なくなっています。



ホシガラス

(4) 佐伯市で確認された重要種

生息環境の悪化や個体数の減少で絶滅が懸念され、保護上の重要種とされている鳥類については、現地調査と文献調査から 67 種が確認されました。(佐伯市鳥類重要種一覧 参照)

環境省レッドリスト (環境省 RL) に掲載されているものはコウノトリやクロツラヘラサギなど 43 種、大分県レッドデータブック (大分県 RDB) 掲載のものはクマタカやセイタカシギなど 61 種、国の天然記念物はコウノトリやコクガン、カラスバトなど 5 種、絶滅のおそれのある野生動物の種の保存に関する法律 (種の保存法) の希少野生動植物種に指定されているものはハヤブサやマナヅルなど 9 種となっています。これらの鳥類は生息環境の悪化や個体数の減少などで絶滅が心配されており、自然環境の重要性や生物多様性の必要性などの啓発や種と生息環境保全のための法整備などが重要です。



コウノトリ



セイタカシギ



マナヅル



コクガン



マガン



ハイタカ

3 自然環境の保全

(1) 渡り鳥の中継地としての自然環境の保全

深島や沖黒島などの島嶼や鶴見半島などの海岸部は豊後水道を渡る鳥たちの通過コースの中にあり、春や秋の渡りの時期には、この林で渡り途中の小鳥類が休息したり、エサを補給したりしているのが見られます。これらの林は渡り鳥の中継地として重要であり、良好な状態で維持保全する必要があります。

(2) 海岸部の環境保全

佐伯市の海岸部は釣りの絶好のポイントで、県内外からたくさんの釣り客がやって来ます。これらの釣り人が放置するテグスや釣針、エサ、ゴミなどが海岸部を生息場所としている海鳥たちに悪影響を及ぼしているケースが多々あり、釣り人のマナー向上の指導が必要です。

漁港の近くでは、ハシブトガラスやハシボソガラス、トビ、ウミネコ、セグロカモメなどがたくさん見られます。これは水揚げされる魚や廃棄される魚介類をターゲットに集まって来ています。カラス類やカモメ類などの雑食性の鳥は、豊富な餌が獲得できることで、個体数を大幅に増やし、他の鳥類の生息を圧迫する傾向にあります。一部の種類の鳥が偏って増加することは、生態系のバランスを壊し、他の種類の生息を危うくしてしまいます。多量の餌となる可能性のある廃棄魚介類や生ゴミなどの管理については、十分注意する必要があります。

(3) 水辺の鳥の生息環境

番匠川水系や北川水系では上流部から下流部にかけて多くの鳥が生息しています。多くの鳥類は水辺での採餌や水の補給など河川の自然環境と深く関わっており、多くの鳥類が生息するためには多様性に富んだ河川の自然環境が必要です。防災上問題のない区域は出来るだけ自然のままの川を残すべきであり、防災上やむなく工事が必要な箇所も出来るだけ自然に近い状態を維持できるような工法等の検討を行う必要があります。一度壊れてしまった自然を元に戻すには多くの時間と労力と費用が必要となってしまいます。

(4) 森林性鳥類の生息環境保全

佐伯市の里山から山地にかけての森林部では多くの種類の森林性の鳥類が生息しています。これらの鳥類が種類、個体数共安定して生息するには、自然度の高い広葉樹林や針広混交林などの森林が必要であり、これら自然度の高い森林は、良好な状態で維持、保全される必要があります。スギやヒノキの人工林の中を歩いてみると鳥の姿は少なく、生き物の気配があまり感じられません。これらスギやヒノキの単一人工林には、積極的に広葉樹を取り入れるなど、草本層から高木層まで豊かな階層性を持った森林にする必要があります。植物や昆虫などの多様性を持った自然環境にこそ、これら多種、多数の鳥が生息出来、そして多種、多数の鳥類は生態系の頂点に位置するクマタカ、オオタカなどの猛禽類の安定した生息を支えることとなります。

(5) 里地里山の環境保全

水田や畑、草地、人家近くの林や河川など、里山は人が自然とかかわりあいながらでき上がった自然環境です。この里山には、農業や林業など人の営みと密接にかかわりながら、多種多様な生き物が生

息できる環境が出来上がっています。近年、人の生活様式や経済活動の変化などで、里山の自然が壊れるケースが増えていますが、多くの生き物が生息するこの里山の環境は大切に維持保全していく必要があります。

参考文献

- 日本鳥学会 2000 日本鳥類目録 改訂第6版
高野伸二 1982 フィールドガイド日本の野鳥 日本野鳥の会
日本鳥類保護連盟 1988 鳥 630 図鑑
松田道生 1985 野鳥の調査 東洋館出版社
由井正敏 1988 森に棲む野鳥の生態学 創文
大分県野鳥友の会 1992 大分県内で観察された野鳥 20周年記念誌
日本野鳥の会大分県支部 2006 おおいたの野鳥
日本野鳥の会大分県支部 機関紙「たより」No.47 (1983.4.30) ~No.231 (2011.11.1)
大分県 2001 レッドデータブックおおいた
武石干雄・財津博文 1985 日豊海岸の鳥類 (日豊海岸国定公園学術調査報告書) 大分県
武石宣彰 1994 蒲江町深島・屋形島・名護屋地域の鳥類 (蒲江町深島・屋形島・名護屋地域自然環境学術調査報告書) 大分県
武石宣彰 2000 藤河内溪谷周辺地域の鳥類 (藤河内溪谷周辺地域自然環境学術調査報告書) 大分県
武石宣彰 2004 鶴見半島及び大島地域の鳥類 (鶴見半島及び大島地域自然環境学術調査報告書) 大分県
武石宣彰 2000 鶴見町の鳥類 (鶴見町の自然) 鶴見町
武石宣彰 2007 城山の野鳥 (豊かな佐伯城山の自然) 番匠川流域ネットワーク
武石宣彰 1986~2008 鳥類観察記録
菊屋奈良義 1991 宇目町誌 (鳥類) 宇目町
菊屋奈良義 1996 上浦町誌 (鳥類) 上浦町
宇野久生 1996 弥生町誌 (鳥類) 弥生町
菊屋奈良義 1997 直川村誌 (野鳥) 直川村
武石宣彰 2005 蒲江町史 (野鳥) 蒲江町

表1 鳥類生息状況調査結果(2009年~2011年)

No.	目	科	種名	生活型	島嶼部	海岸部	河川	市街地近郊	里地里山	山地		
1	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	留鳥			○		○			
2			カンムリカイツブリ	冬鳥			△					
3	ペリカン目	ウ科	カワウ	留鳥	◎	◎	◎	○	○			
4			ウミウ	冬鳥	◎	◎						
5			ヒメウ	冬鳥			△					
6	コウノトリ目	サギ科	ゴイサギ	留鳥			○					
7			ササゴイ	夏鳥			○					
8			アカガシラサギ	旅鳥				△				
9			アマサギ	夏鳥				□	○			
10			ダイサギ	留鳥	○			○	○	○		
11			チュウサギ	夏鳥				△	○			
12			コサギ	留鳥			○	○	○			
13			クロサギ	留鳥	△	△						
14			アオサギ	留鳥	○	◎		○	○	○		
15			カモ目	カモ科	オシドリ	冬鳥			◎		◎	
16	マガモ	冬鳥						◎	○			
17	カルガモ	留鳥						◎	○	○		
18	コガモ	冬鳥						◎	○			
19	ヨシガモ	冬鳥						◎				
20	オカヨシガモ	冬鳥						◎				
21	ヒドリガモ	冬鳥						◎	○			
22	アメリカヒドリ	冬鳥						△				
23	オナガガモ	冬鳥						◎				
24	ハシビロガモ	冬鳥						○	○			
25	ホシハジロ	冬鳥						○				
26	スズガモ	冬鳥						△				
27	ウミアイサ	冬鳥							□			
28	タカ目	タカ科			ミサゴ	留鳥	○	○	○	○		
29			ハチクマ	夏鳥			△					
30			トビ	留鳥	◎	◎	◎	◎	○	○		
31			オオタカ	冬鳥			△	△	△	△		
32			ツミ	冬鳥			△					
33			ハイタカ	冬鳥			△	△	△	△		
34			ノスリ	冬鳥			△	△	△	△	△	
35			サシバ	夏鳥			□			△		
36			クマタカ	留鳥				△			△	
37			ハイロチュウヒ	冬鳥				△		△		
38	タカ目	ハヤブサ科	ハヤブサ	留鳥	△	△	△		△			
39			チョウゲンボウ	冬鳥			○	○	○			
40	キジ目	キジ科	コジュケイ	留鳥	○			○	○			
41			ヤマドリ	留鳥						△		
42			キジ	留鳥	○				○	○		
43	ツル目	クイナ科	ヒクイナ	夏鳥				△				
44			バン	留鳥			○					
45			オオバン	冬鳥			○					
46	チドリ目	チドリ科	コチドリ	夏鳥				○				
47			イカルチドリ	留鳥			○			○		
48			シロチドリ	留鳥			○					
49			ムナグロ	旅鳥					□			
50			タゲリ	冬鳥					△			
51			シギ科	トウネン	旅鳥			○	□			
52				ウズラシギ	旅鳥					△		
53		クサシギ		冬鳥			△	△				
54		キアシシギ		旅鳥			△					
55		イソシギ		留鳥	○		○	○				
56		ソリハシシギ		旅鳥			△					
57		チュウシャクシギ		旅鳥			○					
58		ヤマシギ	冬鳥					△				
59		タシギ	冬鳥					○	○			
60			オオジシギ	夏鳥	△							

No.	目	科	種名	生活型	島嶼部	海岸部	河川	市街地近郊	里地里山	山地	
61	チドリ目	ツバメチドリ科	ツバメチドリ	旅鳥				△			
62		カモメ科	ユリカモメ	冬鳥		◎					
63			セグロカモメ	冬鳥	◎	◎	◎				
64			オオセグロカモメ	冬鳥		○	○				
65			ウミネコ	留鳥	◎	◎	◎	◎			
66		ウミスズメ科	カンムリウミスズメ	冬鳥	△						
67	ハト目	ハト科	カラスバト	留鳥	○						
68			シラコバト	迷鳥				△			
69			キジバト	留鳥			○	○	◎	◎	
70			アオバト	留鳥			○	○		○	
71	カッコウ目	カッコウ科	ホトギス	夏鳥	○	○	○		○		
72	フクロウ目	フクロウ科	アオバズク	夏鳥					○		
73			フクロウ	留鳥						△	
74	アマツバメ目	アマツバメ科	ヒメアマツバメ	留鳥				□			
75			アマツバメ	夏鳥	◎		□	□			
76	ブッポウソウ目	カワセミ科	ヤマセミ	留鳥			○		○		
77			アカショウビン	夏鳥						△	
78			カワセミ	留鳥			○	○	○	○	
79		ブッポウソウ科	ブッポウソウ	夏鳥			○				
80	キツツキ目	キツツキ科	アリスイ	旅鳥				△			
81			アオゲラ	留鳥			△	○	○	○	
82			コゲラ	留鳥	○	○		○	○	○	
83			ヒバリ科	ヒバリ	留鳥			○	○		
84	ツバメ科	ツバメ		夏鳥	○		◎	◎	◎		
85		コシアカツバメ		夏鳥			○				
86		イワツバメ		夏鳥			□		□		
87	セキレイ科	ツメナガセキレイ		旅鳥					△		
88		キセキレイ		留鳥			○	○	○	○	○
89		ハクセキレイ		冬鳥			○	◎	◎	○	
90		セグロセキレイ		留鳥			○	○		○	
91		マミジロタヒバリ		迷鳥					△		
92		タヒバリ		冬鳥				○	◎	◎	
93	サンショウクイ科	サンショウクイ		夏鳥			○	△	○	□	
94	ヒヨドリ科	ヒヨドリ		留鳥	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
95	モズ科	モズ		留鳥		○	○	◎	◎		
96	レンジャク科	キレンジャク		冬鳥					△		
97		ヒレンジャク		冬鳥					□		
98	カワガラス科	カワガラス		留鳥						○	
99	ミソサザイ科	ミソサザイ	留鳥							○	
100	スズメ目	ツグミ科	ルビタキ	冬鳥			△				
101			ジョウビタキ	冬鳥			○	○	○	○	
102			ノビタキ	旅鳥					△		
103			イソヒヨドリ	留鳥	○	◎	○	○			
104			シロハラ	冬鳥			○	○	○		
105			ツグミ	冬鳥				○	◎		
106		ウグイス科	ヤブサメ	夏鳥						△	△
107			ウグイス	留鳥	◎	○	○	○	○	◎	○
108			オオヨシキリ	夏鳥				◎	◎		
109			センダイムシクイ	夏鳥							△
110			セッカ	留鳥				○	○		
111	ヒタキ科	オオルリ	夏鳥	□					○	○	
112		エゾビタキ	旅鳥			△					
113		コサメビタキ	夏鳥	△							
114	カササギヒタキ科	サンコウチョウ	夏鳥			△		○	○		
115	エナガ科	エナガ	留鳥	○	◎	◎	◎	◎	◎		
116	ツリスガラ科	ツリスガラ	冬鳥			△					
117	シジュウカラ科	ヒガラ	留鳥							△	
118		ヤマガラ	留鳥	○	○	○	○	○	○	○	
119		シジュウカラ	留鳥	○	○	○	○	○	○	○	
120	メジロ科	メジロ	留鳥	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
121	ホオジロ科	ホオジロ	留鳥	○	○	◎	◎	◎	◎		

No.	目	科	種名	生活型	島嶼部	海岸部	河川	市街地近郊	里地里山	山地
122	スズメ目	ホオジロ科	ホオアカ	留鳥			△	△		
123			キマユホオジロ	迷鳥	△					
124			ミヤマホオジロ	冬鳥		○			□	
125			ノジコ	旅鳥	△				△	
126			アオジ	冬鳥		○	○	○	○	○
127			オオジュリン	冬鳥				○		
128			アトリ科	アトリ	冬鳥					◎
129		カワラヒワ		留鳥	◎		◎	◎	◎	◎
130		イカル		留鳥			○	○	○	○
131		シメ		冬鳥					△	
132		ハタオリドリ科	ニューナイスズメ	冬鳥					□	
133			スズメ	留鳥	◎		◎	◎	◎	
134		ムクドリ科	ギンムクドリ	迷鳥					△	
135			コムクドリ	旅鳥					□	
136			ムクドリ	留鳥		◎	◎	◎	◎	◎
137		カラス科	カケス	留鳥					○	○
138			コクマルガラス	冬鳥					△	
139			ミヤマガラス	冬鳥					◎	◎
140			ハシボソガラス	留鳥	○		○	◎	◎	◎
141			ハシブトガラス	留鳥	◎	◎	○	○	○	○
142		チメドリ科	ソウシチョウ	留鳥		□		□	□	□

- ◎ 個体数が多く普通に見られる
○ 個体数は多くないが普通に見られる
□ 個体数が少なくないが稀
△ 個体数が少なく稀

表2 佐伯市鳥類重要種一覧

No.	目	科	種名	環境省RL*1	大分県RDB*2	天然記念物*3	種の保存法*4
1	ミズナギドリ目	アホウドリ科	コアホウドリ	絶滅危惧ⅠB類			
2	ペリカン目	ウ科	カワウ		地域個体群		
3			ヒメウ	絶滅危惧ⅠB類			
4	コウノトリ目	サギ科	ヨシゴイ	準絶滅危惧	絶滅危惧ⅠB類		
5			ミソゴイ	絶滅危惧ⅠB類	準絶滅危惧		
6			チュウサギ	準絶滅危惧	準絶滅危惧		
7			クロサギ		準絶滅危惧		
8		コウノトリ科	コウノトリ	絶滅危惧ⅠA類		特別天然記念物	国内希少野生動植物種
9		トキ科	ヘラサギ	情報不足	絶滅危惧ⅠB類		
10			クロツラヘラサギ	絶滅危惧ⅠA類	情報不足		
11	カモ目	カモ科	コクガン	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	天然記念物	
12			マガン	準絶滅危惧	情報不足	天然記念物	
13			ツクシガモ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧ⅠB類		
14			オシドリ	情報不足	絶滅危惧Ⅱ類		
15			トモエガモ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類		
16	タカ目	タカ科	ミサゴ	準絶滅危惧	準絶滅危惧		
17			ハチクマ	準絶滅危惧	準絶滅危惧		
18			オオタカ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類		国内希少野生動植物種
19			ツミ		絶滅危惧Ⅱ類		
20			ハイタカ	準絶滅危惧	準絶滅危惧		
21			サンバ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧		
22			クマタカ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧ⅠB類		国内希少野生動植物種
23		ハヤブサ科	ハヤブサ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類		国内希少野生動植物種
24	キジ目	キジ科	ウズラ	準絶滅危惧	絶滅危惧ⅠB類		
25			ヤマドリ		準絶滅危惧		
26	ツル目	ツル科	ナベツル	絶滅危惧Ⅱ類	情報不足		国際希少野生動植物種
27			マナツル	絶滅危惧Ⅱ類	情報不足		国際希少野生動植物種
28		クイナ科	ヒクイナ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧		
29	オオバン			絶滅危惧Ⅱ類			
30	チドリ目	タマシギ科	タマシギ		準絶滅危惧		
31		チドリ科	コチドリ		準絶滅危惧		
32			シロチドリ		準絶滅危惧		
33		シギ科	ホウロクシギ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類		
34			コジャクシギ	絶滅危惧ⅠB類	情報不足		国際希少野生動植物種
35			オオジシギ	準絶滅危惧	準絶滅危惧		
36		セイタカシギ科	セイタカシギ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類		
37		ツバメチドリ科	ツバメチドリ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類		
38		カモメ科	ズグロカモメ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類		
39			コアジサシ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類		国際希少野生動植物種
40	ウミスズメ科	ウミスズメ	絶滅危惧ⅠA類	情報不足			
41		カンムリウミスズメ	絶滅危惧Ⅱ類	情報不足	天然記念物		
42	ハト目	ハト科	カラスハト	準絶滅危惧	準絶滅危惧	天然記念物	
43			シラコハト	絶滅危惧Ⅱ類			
44	カッコウ目	カッコウ科	ジュウイチ		絶滅危惧Ⅱ類		
45	フクロウ目	フクロウ科	コムミズク		絶滅危惧Ⅱ類		
46			アオバズク		準絶滅危惧		
47			フクロウ		絶滅危惧Ⅱ類		
48	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類		
49	アマツバメ目	アマツバメ科	アマツバメ		準絶滅危惧		
50	ブッポウソウ目	カワセミ科	アカショウビン		絶滅危惧Ⅱ類		
51		ブッポウソウ科	ブッポウソウ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類		
52	スズメ目	ヤイロチョウ科	ヤイロチョウ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧ⅠB類		国内希少野生動植物種
53		サンショウクイ科	サンショウクイ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類		
54		モズ科	チゴモズ	絶滅危惧ⅠA類	情報不足		
55			アカモズ	絶滅危惧ⅠB類	準絶滅危惧		
56		イワヒバリ科	カヤクグリ		準絶滅危惧		
57		ツグミ科	コマドリ		絶滅危惧Ⅱ類		
58			コルリ		絶滅危惧Ⅱ類		
59			クロツグミ		準絶滅危惧		
60		ウグイス科	メボソムシクイ		絶滅危惧Ⅱ類		
61		ヒタキ科	キビタキ		準絶滅危惧		
62		カササギヒタキ科	サンコウチョウ		準絶滅危惧		
63		キバシリ科	キバシリ		情報不足		
64		ホオジロ科	ホオアカ		準絶滅危惧		
65			シマアオジ	絶滅危惧ⅠA類			
66	ノジコ		準絶滅危惧				
67	カラス科	ホシガラス		絶滅危惧Ⅱ類			

*1 環境省RL:環境省レッドリストに記載されている種
 *2 大分県RDB:大分県レッドデータブックに記載されている種
 *3 天然記念物:文化財保護法により天然記念物に指定されている種
 *4 種の保存法:絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律における希少野生動植物種